

麻生区区民会議 第2回若い世代が住みやすいまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年1月30日（金）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]石井委員、上野委員、金光委員、志村委員、白井委員、菅野委員、山田委員、吉垣委員
（欠席）梶委員、高橋委員
[事務局] 企画課 鈴木課長、蛭川、白石、藤江
[コンサルタント] 佐藤

4 傍聴者 0名

5 議 事

（1）企画部会からの報告

菅野委員説明

資料1「第2回企画部会議事要旨」

資料2「麻生区区民会議スケジュール」

- ・企画部会正副部会長、広報活動、スケジュール等について

（2）調査・審議課題の検討について

コンサルタント説明

資料3「第1回若い世代が住みやすいまちづくり部会の意見交換まとめ」

資料4「審議課題絞り込みの考え方（再計）」

資料5「若者世代流入事例：流山市及び豊かさ、住みやすさの要因について」

【主な意見】

- ・流山市と麻生区を比較すると、人口数がほぼ同じ、都心まで便利な交通アクセス、まちの開発状況など、非常に似ている。流山市が若者を増やすことができた要因としてはPRをうまく行ったこと。市長が元広告会社に勤めていた人で、電車の吊革広告など広報に力を入れ、共働きをターゲットに、女性が働きやすい環境、自然の豊かさなどブランドイメージを作り上げた。
- 麻生区は大学が多くあり、視点として安全で便利で学生が住みやすいまちはどうか。
- 流山市はつくばエクスプレスの開通など交通の利便性が向上したためではないか。川崎でいうと武蔵小杉のように。
- 麻生区も言うほど交通は不便ではない。PRのやり方次第であり、下北沢まで直通なことなどはあまり知られていない。
- ・麻生区には最近まで産婦人科がなかった。今は2か所あるが、早目に予約をしないと入れない。若い人を呼び込むといっても基礎がない。
- ・麻生区もこれまで若者が増えてきた。さらに呼び込むためには現状に何をプラスして

いけばいいか。それには流山のようなPRが必要。PRの方法としては次の2点を考えること。

●今既に持っている良さを掘り起こす（芸術・文化など）

●区民にプラスのことを新たに提案して作り出す。

・子育てフェスタで参加者から声を聞くと行政、団体が行っている様々な支援の情報を知らなかったという声が多数あった。こうした情報はわかりやすく集約して発信して届ける必要がある。子育てに限らず他のジャンルにおいても同じ話しである。

・高齢化による空き家の問題があるが、これに生産年齢の世代を呼び込むことで解決につなげる。一つにシェアハウスとしての活用があり、今も昭和音楽大学の学生などシェアハウスを借りているという話しを聞いている。地域貢献を条件に安く貸すという世の中の流れとして他人と同居するということに抵抗がなくなってきている。

→空き家ができるのは駅から遠い場所ばかりであり、条件の悪いところに果たして学生はくるのかどうか。

→王禅寺などでも部屋を貸したいという話しを聞いたことがある。

→実施方法としては、行政が行うよりもNPOの立ち上げや、不動産業者を入れる必要があるか。

→横浜市では空き家を外国人に貸しているという話しもある。

→東急沿線では駅近マンションの開発を企業としてやっている。区民会議がこうしたアイデアを示すだけでもよいのでは。小田急にとっても人口減少は利用者減少につながり課題であるはずなので、何かできるかもしれない。

・子どもに麻生区の問題点を聞くと遊び場が少ないという声が多かった。隠れ谷公園は人気であり、麻生小学校が近い、公園管理が2／月ある、遊具があり人の目が行き届いている。山口白山公園は3年前までは人が寄ってこなかった。管理協議会が手入れをするようにしたら子どもが遊びに来るようになり、不法投棄が減ったが、公園奥の暗いところでは、今も不法投棄や落書き、焚き火の跡などがある。

→隠れ谷公園は、近隣住民が木を切って見通しをよくし、若者が管理団体を立ち上げ定期的にイベントが開かれるようになった。このやり方をモデル的に広げていけばよいのではないか。

・若い世代のターゲットはどこにおくのか。流山市では共働き世代をターゲットとしたが、この世代は父親の収入が低いと想定される。一方で麻生区は比較的父親の収入が高く母親は主婦でいる人が多いのではないか。

以上